

1. 研究会の開催状況

(1) 研究会の開催日は次のとおり。

- ・第8回研究会／平成18年5月30日
- ・第9回研究会／平成18年7月25日
- ・第10回研究会／平成18年9月25日
- ・第11回研究会／平成18年11月27日、11月28日
- ・第12回研究会／平成19年1月30日
- ・第13回研究会／平成19年3月27日、3月28日

(2) 各研究会の状況は、次のとおりである。

▽第8回研究会／平成18年5月30日／10：00～15：00

1) 委員の交代について

辞任 谷口博繁委員（前鳥取県立博物館長）

新任 三田清人委員（鳥取県立博物館長）

2) 中間報告書について

下條座長及び杉原副座長から、5月22日に中間報告書を知事に提出したことを報告

3) 調査・研究活動の状況について

次の項目について委員から資料が提出され、意見交換が行われた。

- ・「村川家」と竹島問題について
- ・西欧製地図の分析結果について
- ・「新人国記」所収の「隠岐国図」について
- ・「石見外記」の竹島、松島の記載について

4) 今後の調査・研究について

- ・今後のゲストスピーカーとして、国内の研究者及び韓国の研究者を招聘することとし、数人の候補者に呼びかけることになった。
- ・研究会としての活動の一環として、文献・史料などの収集及び韓国での調査・研究活動を具体的に検討することになった。

▽第9回研究会／平成18年7月25日／11：00～16：00

1) 日本、韓国の研究者から意見聴取

①韓国の研究者

- ・講師：韓国大邱大学校日本学科専任講師 崔長根（チェ・ジャングン）氏

・主な内容

竹島問題についての韓国研究者としての見解について

領土認識の違いと日本の竹島関係資料の解釈について

→晴れた日には鬱陵島から竹島が「見える」ことを根拠に、東海（日本海）には鬱陵島と独島（竹島）の2島があることを、朝鮮は6世紀頃から認識していた。「見える」というのは、領有権を決める大きな論拠になる、と主張。

→「見える」ことと領有権は別問題。鬱陵島から独島（竹島）が「見えて」いたのか文献で示す

べきとの質問に対しては、専門外として明確な回答がなかった。

②日本の研究者

- ・講師：浜田市文化財審議会委員 森須和男氏

主な内容

(天保) 竹嶋一件について

江戸時代に石見地方へ漂着した朝鮮国船の動向について

2) 調査・研究活動の状況について

委員からの資料提出、報告等

①学校教育現場における実践

②隠岐島での調査研究活動の報告

- ・ 7月23日から24日まで
- ・ 下條座長、杉原副座長、船杉委員
- ・ 7/23 隠岐の島町久見地区住民との意見交換
- ・ 7/24 海士町村上家資料と村上助九郎氏との意見交換

3) 今後の運営等

次回もゲストスピーカーとして、韓国の研究者を招聘

数人の委員により、韓国での調査・研究活動を実施する方向で検討

▽第10回研究会／平成18年9月25日／11：00～16：00

1) 韓国の研究者から意見聴取

韓国の研究者

- ・講師：東京大学東洋文化研究所助教授 玄大松（ヒョン・デソン）氏
- ・主な内容

韓国における竹島/独島問題の認識の形成と意識

竹島/独島問題におけるマスメディアの姿勢と役割

→韓国国民は独島を独立のシンボルとし、独島を媒介に植民地時代の記憶を呼び起こしている。

そうした世論形成は、教育より韓国マスメディアの影響が大きい。

→新聞の論調は偏向した内容が多い。独島（竹島）問題によって、韓国国民に反日感情が浸透していくのが問題だ。

→竹島問題の解決には、韓国側で日本に対する見方を変える必要があり、時間がかかる。従軍慰安婦や歴史認識などの問題を両国が取り組んだ上で、「川は誰のものか」の意識をもって共存の道を探る必要がある。

2) 調査・研究活動の状況について

委員からの資料提出、報告等

- ・明治39年5月に奥原碧雲が発表した「竹島沿革考」
- ・「竹嶋図」（今津屋八右衛門ほか）の考察
- ・「朝鮮水路誌」及び「韓国新地理」の解釈について
- ・「磯竹島事略」についての考察
- ・韓国の最新事情報告

3) 今後の運営等

- ・次回以降は最終報告に向けての意見交換、取りまとめ等を行う
- ・数人の委員により、韓国での調査・研究活動を実施する方向で日程調整

時期 11月上旬

日程 今後詳細を詰める

▽第11回研究会／平成18年11月27日／14：00～17：00

平成18年11月28日／10：00～15：00

1) 韓国での研究調査活動の報告

- ・11/2(木)から11/5(日)まで、研究会メンバー4人で実施
- ・主な調査研究活動
 - 18世紀から19世紀に、日本、朝鮮で作成された絵図に記述された鬱陵島及びその周辺の島嶼の状況を会場から確認
 - 独島博物館に展示してある韓国側の主張の論拠となっている絵図、地図及び歴史史料を確認
 - 6名の韓国研究者との意見交換
- ・今回の調査研究活動の成果
 - 現地との対応の結果、絵図に記述された鬱陵島の状況、周辺の島や岩礁の状況がほぼ正確に記述されていることが確認できた。
 - 歴史史料に記述されている鬱陵島における大谷、村川家の経済活動の背景が確認できた。
 - 韓国の地で、初めて韓国側の研究者と率直な意見交換ができたこと、今後とも、こうした意見交換が有意義であることを双方で確認できた。

2) 調査・研究活動の状況について

委員からの資料提出、報告等

①「中井養三郎氏立志傳」松江市：奥原秀夫氏

- ・竹島の日本編入と貸下げ申請をした中井養三郎の申請に至る経緯を、奥原碧雲が聞き書きした資料。
- ・今まで発表された資料の中ではオリジナルに近いもので、日韓の研究者間の争点となっている解釈に、新たな材料を提供する第1級の研究資料。

②「日本はこのように独島を侵奪した」韓国：正しい歴史定立歴史団発行 日本語訳

3) 最終報告書について

最終報告書の校正、盛り込む内容等について確認し、各々その準備を進めることとした。

▽第12回研究会／平成19年1月30日／10：00～15：00

1) 「竹島関係」副教材の作成

①副教材の概要

- ・隠岐の島町教育委員会作成の「ふるさと教育副教材」に、「竹島関係」を盛り込む
- ・小学校高学年から中学校で使うことを予定
- ・今年度内に作成し、順次、各学校での授業で使用
- ・主な内容

江戸時代から現在にかけての「隠岐と竹島との関わり」を、地元に残る資料を用いて、身近な

問題としてわかりやすく記述

②研究会の関わり

「竹島関係」で初めて学校で使われる副教材のため、歴史的事実など研究会の調査研究の成果を
アドバイス

2) 調査・研究活動の状況について

委員からの資料提出、報告

①竹島での漁業活動経験者からの聞き取り調査

- ・ 1 / 21～22に、杉原副座長ほか 2 名で実施
- ・ 隠岐の島町蛸木在住の吉山武氏（96歳）
- ・ 昭和10年頃、橋岡忠重氏に雇われ、竹島での漁業活動に従事
- ・ 竹島で本格的な漁業活動が行われていた戦前の竹島渡航者で唯一の生存者
- ・ 当時の漁業活動の様子や、同行者の状況などが判明

②米子市山陰歴史館での調査

- ・ 1 / 26に、杉原副座長ほか 2 名で実施
- ・ 大谷、村川両家の文献、絵図などを調査。引き続き、詳細調査の予定

③出雲市「郷土資料館まにわ文庫」での調査

- ・ 1 / 29に、下條座長ほか 2 名で実施
- ・ 絵図、地図類を幅広く、収集、保管。引き続き、詳細調査の予定

3) 最終報告書について

最終報告書の構成、盛り込む内容等について確認し、各々その準備を進めることとした

4) 今後の運営等

- ・ 次回の第13回研究会は、3月下旬に開催予定。研究会としては、最後の会合
- ・ 最終報告の取りまとめ等を行う

▽第13回研究会／平成19年3月27日／14：00～17：00

平成19年3月28日／10：00～12：00

1) 最終報告について

最終報告書の構成、盛り込む内容等について取りまとめ

- ・ 最終報告書は、本書と別冊及び資料等を収録したCDから構成
- ・ 平成19年4月中に報告書を作成し、県に提出する予定

2) 研究会の調査研究活動について

竹島問題研究会としての2年間の調査研究活動と、今後の取り組みなどについて意見交換

3) 調査・研究活動の状況について

委員からの資料提出、報告等

- ・ 鬱陵島、竹嶼（竹島）の竹について
- ・ 竹島渡航者の記録について